

(別添5)

日中環境大臣バイ会談及び日韓環境大臣バイ会談の概要 (平成20年12月1日、韓国・済州島)

○日中バイ会談 (18h30～19h00)

- ・ 先方は周生賢 環境保護部長、当方からは斉藤環境大臣、寺田地球環境局長、小林環境協力室長らが出席。
- ・ 斉藤大臣より、トキの放鳥の進展を中国側に紹介し、周部長 (2000～2005年に国家林業局長としてトキ協力を担当) に謝意。
- ・ 斉藤大臣より、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)の基盤強化や東アジア地域の大气汚染問題への協力の推進を申し入れ。周部長より、中国側としても関心はあるが、まずは事務レベルで調整を進めたい旨回答。
- ・ 斉藤大臣より、気候変動の次期枠組みへの中国の積極的な参加を要請。周部長より、発展改革委員会と環境保護部の役割分担を説明するとともに、日本からの技術移転への期待感を表明。
- ・ 斉藤大臣より、コベネフィット・アプローチ日中モデル事業 (四川省) 及び農村地域分散型排水処理モデル事業 (重慶市、江蘇省) の積極的な推進の意向を表明。中国側より、コベネ事業の順調な進行を評価するとともに、分散型排水処理は中国の状況に非常に適した事業であり、ぜひ中国全土に展開したい旨回答。両事業とも、具体的事項は12月上旬の水大気環境局長の訪中時に議論予定。
- ・ 斉藤大臣より、今後の石綿対策への参考として、冊子「日本の石綿対策」を周部長に手交。先方より謝意。石綿、水俣病等、日本の経済成長時の負の側面に学びたい旨回答。

○日韓バイ会談 (19h00～19h30)

- ・ 先方は李萬儀 環境部長官、当方からは斉藤環境大臣、寺田地球環境局長、小林環境協力室長が出席。
- ・ 斉藤大臣より、本年10月に韓国開催のラムサール条約締約国会議の成功を祝うとともに、2010年に名古屋で開催予定の生物多様性条約第10回締約国会議への協力を要請。李長官より、ラムサール条約締約国会議への日本の協力について、謝意が示されるとともに、生物多様性条約COP10への期待感が示された。
- ・ 斉藤大臣より、国内排出量取引制度についての我が国の取組みを紹介し、両国の事務レベルでの情報交換を提案。韓国側からは、環境部は韓国の商品先物取引市

場と協定を結んで取組みを進めているところであり、来年には自治体単位で試験的に制度を施行する予定であることを紹介するとともに、将来の国際的な炭素市場の形成も念頭に置きつつ、この分野での協力を積極的に取り組んでいきたい旨回答。

- 李長官より、2012年は国連環境開発会議（地球サミット、リオデジャネイロ開催）の20周年であることから、リオ+20の韓国開催に向けて、日本の協力を要請。我が方からは、アジア開催の意義を評価しつつも、国連持続可能な開発委員会(CSD)との整合を検討しつつ、今後しっかり議論していきたい旨を回答。
- 斉藤大臣より、漂流漂着ゴミへの韓国の一層の取組み強化を要請し、李長官より共感が示された。
- 斉藤大臣より、今後の石綿対策への参考として、冊子「日本の石綿対策」を李長官に手交。先方より謝意。石綿は韓国でも既に患者が発生しており社会の関心が高く、最近施行した環境健康法での取組や、NGOの取組が始まっている旨を紹介。